



Sun StorEdge™ 3000 Family Diagnostic Reporter 1.2 ユーザ ガイド

Sun StorEdge 3510 FC Array

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.
650-960-1300

Part No. 817-2774-10
2003 年 3 月 Revision A

コメントの宛先:docfeedback@sun.com

Copyright © 2002–2003 Dot Hill Systems Corporation, 6305 El Camino Real, Carlsbad, California 92009, USA. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および Dot Hill Corporation は、本製品または文書に含まれる技術に関する知的所有権を所有していることがあります。特に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に記載される米国特許権が 1 つ以上、あるいは、米国およびその他の国における追加特許権または申請中特許権が 1 つ以上、制限なく含まれている場合があります。

本製品または文書は、その使用、複製配布、およびデコンパイルを制限するライセンスの下に配布されます。Sun およびそのライセンサ（該当する場合）からの書面による事前の許可なく、いかなる手段や形態においても、本製品または文書の全部または一部を複製することを禁じます。

サードパーティ ソフトウェアは、Sun のサプライヤより著作権およびライセンスを受けています。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. からの独占ライセンスを受けています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Sun StorEdge、AnswerBook2、docs.sun.com、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Micro Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

米国政府の権利 - 商用。政府内ユーザは Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

本文書は “AS IS（現状のまま）” として提供されるもので、商品性、特定用途の適合性、または非侵害性に対するすべての暗黙的保証を含め、すべての明示的または暗黙的條件、表明、および保証を、そのような放棄が法律上無効とされる場合を除き放棄します。



Adobe PostScript

目次

序文 v

1. 概要 1

Diagnostic Reporter とは 1

Diagnostic Reporter の動作メカニズム 2

2. Diagnostic Reporter のインストールと使用 5

Diagnostic Reporter のインストール 5

インストール パッケージ 5

▼ Diagnostic Reporter をインストールする 6

Solaris 動作環境 6

Linux 動作環境 7

Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システム 8

▼ Diagnostic Reporter を手動で起動/停止する 9

Solaris/Linux 動作環境 9

Microsoft Windows NT オペレーティング システム 9

Microsoft Windows 2000 オペレーティング システム 10

Diagnostic Reporter 構成のセットアップ 10

▼ 構成をセットアップする 10

▼ レポート ツールをセットアップして使用する 17

- ▼ Mail Receiver Tool をセットアップして使用する 18
- ▼ Diagnostic Reporter をアンインストールする 19
 - Solaris 動作環境 19
 - Linux 動作環境 19
 - Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システム 19
- トラブルシューティング 20

序文

本書では、Sun StorEdge Configuration Service の併用ユーティリティとして Diagnostic Reporter をインストールおよび使用方法について説明します。

本書は、Sun のハードウェアおよびソフトウェア製品の使用に習熟した上級のシステム管理者を対象として書かれています。

本書の構成

本書には次のトピックが含まれています：

第 1 章: Diagnostic Reporter の機能を紹介し、その動作について概説します。

第 2 章: Diagnostic Reporter をインストール、セットアップ、アンインストールする手順を説明します。

UNIX コマンドの使用

基本的な UNIX[®] コマンドに関する情報や、システムのシャットダウンと起動、デバイスの構成などの手順は、本書では説明されていない場合があります。

必要に応じて、以下の文書を参照してください。

- Solaris Handbook for Sun Peripherals
- Solaris[™] 動作環境用 AnswerBook2[™]
- 各システムに付属のその他のソフトウェア文書

表記規約

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。- 画面に表示されるコンピュータ出力。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使って、全ファイルを一覧表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力と区別し、ユーザーが入力する内容。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	書名、新しい用語、語句の強調。コマンドライン変数に対して入力する実際の名前または値。	『ユーザガイド』の第 6 章を参照してください。 これらは クラス オプションと呼ばれます。 この操作を行うには、スーパーユーザーでなければなりません。 ファイルを削除するには、rm ファイル名 と入力します。

*. これらの書体は、使用しているブラウザの設定により異なる場合があります。

シェル プロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

関連マニュアル

タイトル	Part No
『Sun StorEdge 3000 Family Release Notes』	816-7301
『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービス マニュアル』	817-2758
『Sun StorEdge 3000 Family 最適使用法の手引き』	817-2761
『Sun StorEdge 3000 Family RAID ファームウェア ユーザ ガイド』	817-2764
『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザ ガイド』	817-2771
『Sun StorEdge 3000 Family FRU インストール ガイド』	817-2765
『Sun StorEdge 3000 Family ラック インストール ガイド』	817-2768
『Sun StorEdge 3000 Family 安全、規格、遵守マニュアル』	816-7930

テクニカル サポート

最新の技術情報やトラブルシューティングのヒントは、次の該当するディレクトリで、使用するアレイの『リリース ノート』を参照してください。

www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/3510

無休 24 時間体制の Web ベースのサポート ソリューションには、次のオンライン サポート センターからアクセスできます。

www.sun.com/service/online

国際サポートの電話番号、およびオンラインでのサポート リクエストの送信方法については、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) に連絡するか、次の URL にアクセスしてください。

www.sun.com/service/contacting

Sun オンライン文書へのアクセス

Sun StorEdge 3510 FC アレイに関する文書はすべて、PDF および HTML 形式で、次の 2 つの URL からオンラインで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/3510

注 – 上記の場所からは、すべての HTML 文書を一度にダウンロードできます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun StorEdge 3510 SCSI Array マニュアルの書籍は、次のサイトからご注文になります。

<http://corppub.iuniverse.com/marketplace/sun>

508 アクセシビリティ機能

Sun StorEdge 文書は、508 条に準拠した HTML ファイルで入手可能なため、視覚障害を持つ人々のための支援テクノロジー プログラムと一緒に使用できます。これらのファイルは、使用する製品の文書 CD と、viii ページの「Sun オンライン文書へのアクセス」に記載されている Web サイトで入手できます。さらに、ソフトウェア アプリケーションとファームウェア アプリケーションではキーボード ナビゲーションとショートカットも使用可能です。これらに関する説明はユーザ ガイドに記載されています。

本書に対するご意見

Sun では、よりよいマニュアル作成のため、皆様からのご意見やご提案を歓迎いたします。コメントがありましたら電子メールで下記へお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの件名に、ご使用のマニュアルの Part No. (817-2774-10) をお書き添えください。

第1章

概要

この章では Diagnostic Reporter の機能を紹介します。この章には以下の項目が含まれます。

- 1 ページの「Diagnostic Reporter とは」
 - 2 ページの「Diagnostic Reporter の動作メカニズム」
-

Diagnostic Reporter とは

Configuration Service コンソール プログラムをフォアグラウンドで常時実行する代わりに、Configuration Service の併用ユーティリティである Diagnostic Reporter を使用することができます。このユーティリティはバックグラウンド サービスとして実行され、指定された電子メール アドレスにホストおよびアレイからのメッセージを送信します。Diagnostic Reporter は以下の機能を提供します。

- 送信されるメッセージ トラップの種類を指定する
- 送信されるメッセージのタイミングを指定する
- 暗号化されたメッセージを送信する
- Mail Receiver Tool でメッセージを受信し、暗号化されたメッセージを解読する（受信側のコンピュータに Microsoft Outlook などのプログラムがない場合に電子メール表示プログラムとして機能する）

Diagnostic Reporter をストレージ データ ネットワーク全体で使用するには、制御用 Configuration Service エージェントを持つ各コンピュータ上にこのユーティリティをサービスとしてインストールします（制御用エージェントは、特定のアレイと通信する唯一のエージェントです）。

すべてのホスト コンピュータに Diagnostic Reporter をインストールすることの主な利点は、各コンピュータに定期的に信号を送信して、ホストに障害が発生した際に、指定された電子メール アドレスに Configuration Service エージェントから一点故障メッセージを送信するように設定できることです。

Diagnostic Reporter には以下のコンポーネントが含まれています。

- Diagnostic Reporter エージェント (デーモン) - Diagnostic Reporter がインストールされたコンピュータ上で常時バックグラウンドで動作する。このデーモンは、Configuration Service が動作しているどのコンピュータにでもインストールし、使用できる。
- Diagnostic Reporter Config Tool (UI) - アラートまたは情報として特定の電子メールアドレスに送信されるメッセージ トラップと Configuration Service エージェントに送信されるメッセージ トラップの種類を設定するユーティリティ。UI (ユーザー インターフェイス) とも呼ばれる。
- Diagnostic Reporter Mail Receiver Tool - 収集したメッセージを表示する。POP3 Mail Receiver とも呼ばれる。

Diagnostic Reporter の動作メカニズム

Configuration Service エージェントに接続された後、Diagnostic Reporter はエージェントからのすべてのイベントを受信します。TRAP 条件が指定されているイベントの場合、Diagnostic Reporter はそのイベントをユーザー指定による電子メールアドレスに送信します。

Diagnostic Reporter がエージェントに接続できない場合やエージェントがオフラインの場合、Diagnostic Reporter は 5 分おきにそのエージェントの発見を試みます。これは、トラフィックが多い場合に Diagnostic Reporter がエージェントから切断されるのを防ぐためです。

一般的なセットアップを示す下図では、アレイ ホスト (コンピュータ #1、#2、#3) がアレイ デバイス (#A、#B、#C) にそれぞれ使用されています。各ホストには Configuration Service エージェントと Diagnostic Reporter デーモンがインストールされています。各 Diagnostic Reporter デーモンは、イベント メッセージを任意の電子メールアドレス (コンピュータ #5 として示され、Mail Receiver Tool でメッセージをダウンロードする) へ送信するように、Config Tool を使って設定できます。

Diagnostic Reporter Config Tool と Configuration Service コンソール プログラムはネットワーク上のどのコンピュータにでも配置できますが、ここでは単に便宜のためコンピュータ #4 に配置されています。

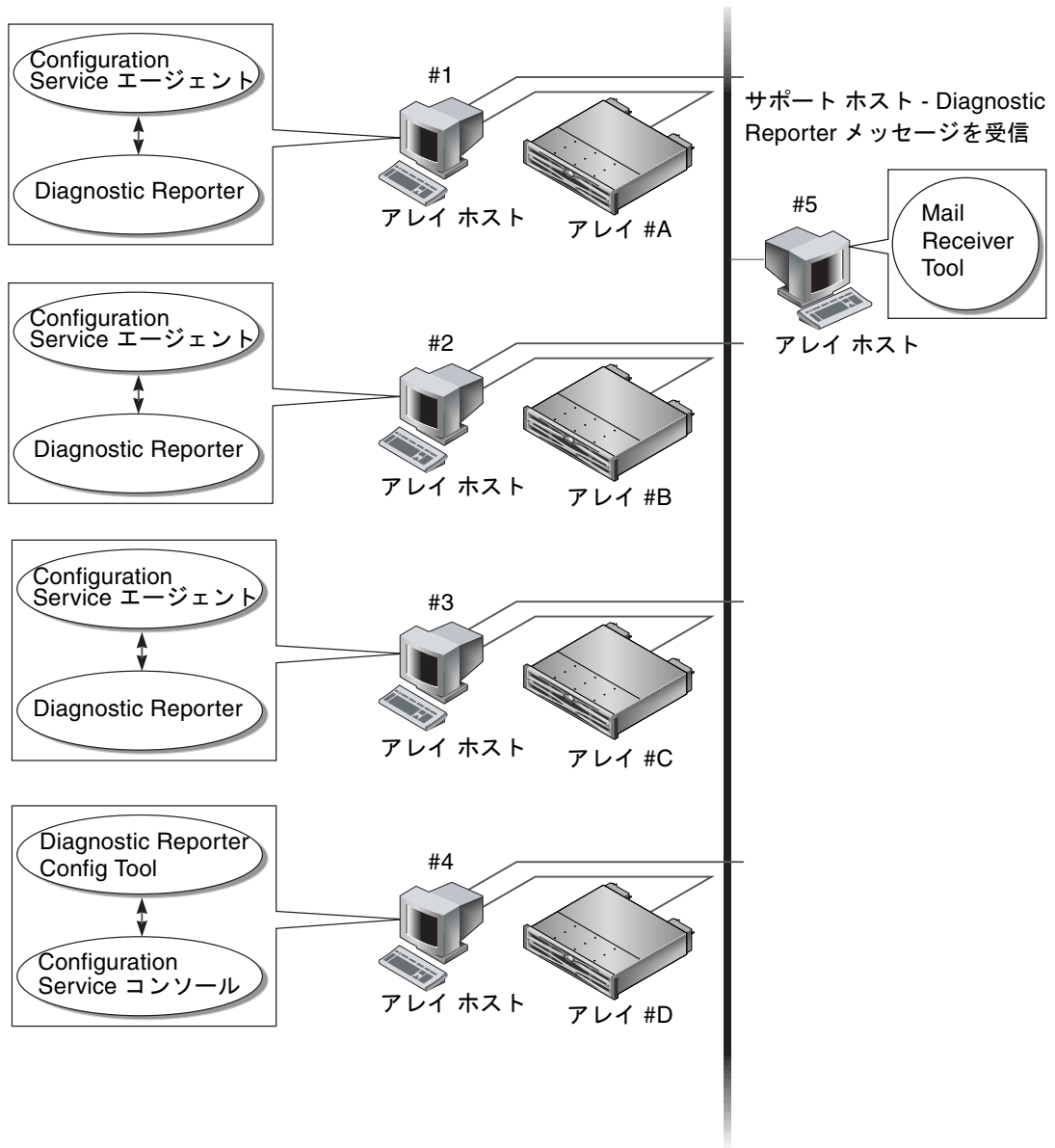


図 1-1 Diagnostic Reporter と Configuration Service の一般的なセットアップ

第2章

Diagnostic Reporter のインストールと使用

この章では、Diagnostic Reporter のインストールと使用方法について説明し、レポート ツールと Mail Receiver Tool についても説明します。この章には以下の項目が含まれます。

- 5 ページの「Diagnostic Reporter のインストール」
- 6 ページの「Diagnostic Reporter をインストールする」
- 9 ページの「Diagnostic Reporter を手動で起動/停止する」
- 10 ページの「Diagnostic Reporter 構成のセットアップ」
- 10 ページの「構成をセットアップする」
- 17 ページの「レポート ツールをセットアップして使用する」
- 19 ページの「Diagnostic Reporter をアンインストールする」
- 20 ページの「トラブルシューティング」

Diagnostic Reporter のインストール

インストール パッケージ

Diagnostic Reporter インストール パッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Storage Manager CD に格納され、以下のファイルが含まれています。

Solaris 動作環境

- SUNWscsa - Diagnostic Reporter エージェント
- SUNWscui - Diagnostic Reporter Config Tool (UI)

Linux 動作環境

- SUNWscsa.rpm - Diagnostic Reporter エージェント
- SUNWscui.rpm - Diagnostic Reporter Config Tool (UI)

Microsoft Windows オペレーティング システム

- setup.exe - Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool (UI)

▼ Diagnostic Reporter をインストールする

Solaris 動作環境

注 - Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 - Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment 1.2 以上がインストールされていることを確認してください。

注 - Diagnostic Reporter をインストールするには、スーパーユーザーの特権が必要です。

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/product/solaris
```

2. Diagnostic Reporter エージェント（デーモン）をインストールするには、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNWscsa
```

Diagnostic Reporter Config Tool (UI) をインストールするには、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNWscui
```


- 標準インストール プロンプトのそれぞれに対して、適切な応答を入力します。

インストール プロンプトは、インストールするパッケージの選択と、（スーパーユーザー特権での）スクリプトの処理方法に関する標準の `pkgadd -d` プロンプトです。

- インストール手順が完了したら、再起動してドライバとサーバデーモンを起動します。

Diagnostic Reporter ソフトウェアは次のディレクトリにインストールされます。

- `/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd`
- `/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterui`

Linux 動作環境

注 – Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 – Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment 1.2 以上がインストールされていることを確認してください。

注 – Diagnostic Reporter をインストールするには、スーパーユーザーの特権が必要です。

- Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/product/linux
```

- Diagnostic Reporter エージェント（デーモン）をインストールするには、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscsa.rpm
```

Diagnostic Reporter Config Tool (UI) をインストールするには、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscui.rpm
```

3. インストール手順を完了すると、エージェントは自動的に起動します。

Diagnostic Reporter ソフトウェアは次のディレクトリにインストールされます。

- /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd
- /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterui

Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システム

注 - Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 - Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment 1.2 以上がインストールされていることを確認してください。

注 - Diagnostic Reporter をインストールするには、管理者の特権が必要です。

1. ソフトウェア インストール ユーティリティ機能が最適に動作するように、動作中のすべての Windows アプリケーションを終了します。
2. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、`\product\windows` にディレクトリ変更します。
3. `setup.exe` をダブルクリックして、SUNWsscs Diag Reporter を選択します。
4. Choose Destination Location ウィンドウで、デフォルトのフォルダ (C:\Program Files\Sun\ssdgrpt) にインストールし、Next をクリックします。
別のフォルダにインストールするには、Browse をクリックしてそのフォルダを選択し、Next をクリックします。
5. 次のウィンドウが表示されたら、Full Installation をクリックして Next をクリックします。
 - Full Installation - 3 つのソフトウェア コンポーネント (Service、Config Tool、Mail Receiver Tool) をインストールする。
 - Service Installation - バックグラウンドの Service ソフトウェアだけをインストールする。Service 機能は Config Tool からリモートで設定できる。
 - UI Installation - Config Tool と Mail Receiver Tool だけをインストールする (Service は除く)。

注 – 管理者特権を持っていない場合や、必要な Java Runtime Environment がインストールされていない場合は、Diagnostic Reporter Service が実行されていないか異常終了中であるというエラー メッセージが表示され、インストールを完了することはできません。

6. コンポーネントがすべてインストールされたら、Finish をクリックしてインストールを完了します。

▼ Diagnostic Reporter を手動で起動／停止する

Solaris/Linux 動作環境

注 – デーモンを起動／停止するには、スーパーユーザーの特権を持ち、Bourne シェルから実行する必要があります。

1. Diagnostic Reporter エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssdgrptd start
```

2. Diagnostic Reporter エージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssdgrptd stop
```

Microsoft Windows NT オペレーティング システム

注 – デーモンを起動／停止するには、管理者の特権が必要です。

Diagnostic Reporter エージェント ソフトウェアをサーバ上で起動するには、サーバをリブートするか、Diagnostic Reporter Service を Settings → Control Panel → Services から起動する必要があります。

Configuration Service エージェントを停止するには、Settings → Control Panel → Services にアクセスし、停止するエージェントを選択して Stop をクリックします。

Microsoft Windows 2000 オペレーティング システム

注 – デーモンを起動/停止するには、管理者の特権が必要です。

1. Diagnostic Reporter エージェント ソフトウェアをサーバ上で起動するには、Start → Administrative Services → Computer Management を選択します。
2. Services & Applications をクリックします。
3. Diagnostic Reporter Server を選択し、起動または停止するサービスを右クリックします。

別の方法として、Start → Settings → Control Panel → Admin Tools → Computer Management を使用することもできます。

Diagnostic Reporter 構成のセットアップ

Diagnostic Reporter Config ユーティリティのインスタンスは一度に1つだけ開くことができます。構成情報は `ssdgrpt_cfg.xml` という名前のファイルに保存されます。

注 – 構成の変更を Diagnostic Reporter Service に実装するには、Diagnostic Reporter サーバーに接続されている必要があり、変更を終えた後に Save Configuration をクリックしなければなりません。

▼ 構成をセットアップする

1. Diagnostic Reporter を起動します。
Solaris/Linux 動作環境では、次のように入力します。

```
# ssdgrptui
```

Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システムでは、Start → Programs → Sun StorEdge 3000 Family → Diagnostic Reporter Config Tool を選択します。

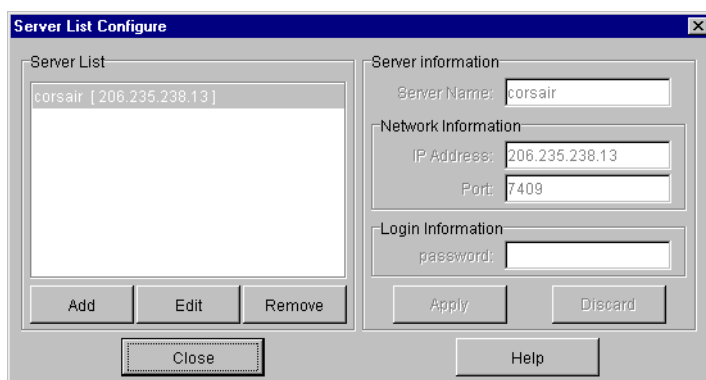
以前に Diagnostic Reporter デーモンを設定し、接続したことがある場合、Config Tool は最後に使用されたサーバーに自動的に接続します。

2. 初めてのインストールの場合は、まず Config Tool と、Diagnostic Reporter デーモンが実行されるサーバーとの接続をセットアップする必要があります。

- a. サーバー接続を作成するため、Servers → Server List Setup を選択します。
- b. Server List Configure ダイアログボックスで、Add をクリックし、Diagnostic Reporter デーモンのサーバ名と IP アドレスを入力します。
- c. デフォルトのポート番号をそのまま使用します（番号は自動的に表示され、Diagnostic Reporter Config Tool (UI) が Diagnostic Reporter デーモンと通信するために使用されます）。
- d. サーバーの `ssconfig` ログインパスワードを入力します。

これは、Configuration Service のインストール時に設定したログインパスワードと同じものです。このパスワードがまだ設定されていない場合は、先へ進む前にそれを設定する必要があります。詳細は、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザガイド』を参照してください。

- e. Apply をクリックします。

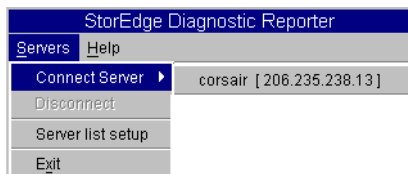


Diagnostic Reporter のサーバ名と IP アドレスが Server List に表示されます。Diagnostic Reporter Config Tool は複数のサーバにアクセスできますが、一度に接続できるのは、1つのサーバと1つの Diagnostic Reporter Service だけです。

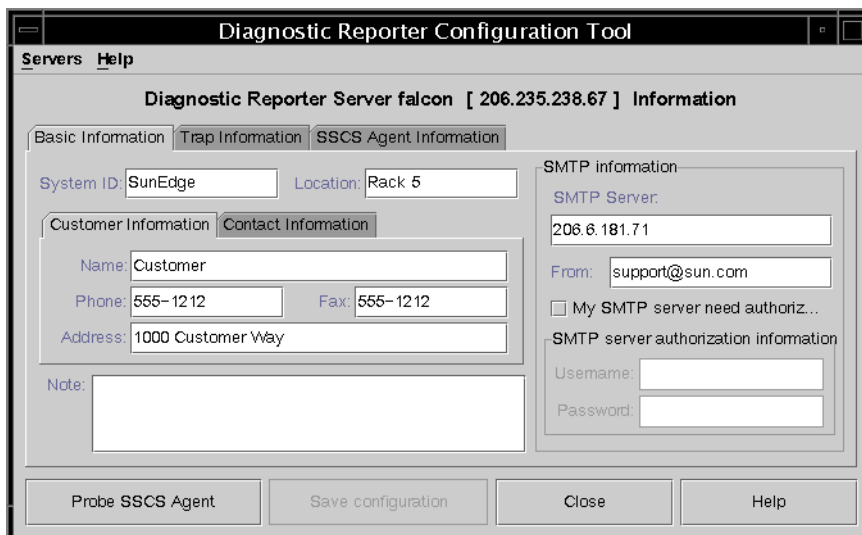
各サーバーのパスワードを指定しなかった場合、サーバーに接続するたびにパスワードの入力を求められます。

3. Close をクリックします。

4. Diagnostic Reporter サーバーに接続するには、Servers → Connect Servers を選択して、表示されるリストから希望のサーバーを選択します。



5. Basic Information タブをクリックし、電子メール サーバとイベント メッセージで使用する情報を入力します。



- System ID と Location - Diagnostic Reporter Service が常駐するサーバーを説明するフィールド。
- Customer Information と Contact Information - イベント電子メールに添付する情報を指定します。イベント メッセージを複数の電子メール アドレスに配信する場合に便利です。
- SMTP Server - Diagnostic Reporter が電子メールの送信に使用する IP アドレスまたはドメイン名。不正なアドレス（またはドメイン名）を入力すると、Diagnostic Reporter はそれを見つけることができないため、メール メッセージが送信されません。SMTP サーバーで認証が必要とされる場合、SMTP サーバーへのログインに必要な情報を入力する必要があります。

6. From フィールドは、次の形式を使って設定します。

<i>name@domain</i>

7. 報告されるトラップ メッセージを指定するには、Trap Information タブをクリックして Add をクリックします。

Add one Trap ダイアログボックスで、希望のパラメータを選択します。

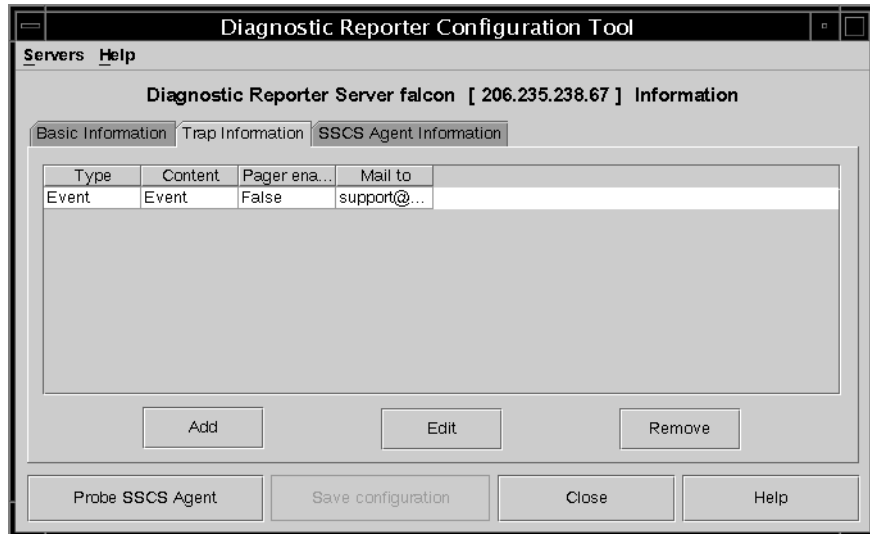
The screenshot shows the 'Add one Trap.' dialog box. It is divided into three main sections: 'Trap information', 'Trap Type', and 'Mail information'.
- **Trap information:** 'Content' is set to 'All'. 'XML Format' is checked.
- **Trap Type:** 'Event' is selected. Under 'Property of event type trap', there is a 'Min interval between mails' field. Under 'Property of periodic trap', there are fields for 'Minute', 'Hour', 'Day of month', 'Month', and 'Day of week'.
- **Active trap events:** 'Information event', 'Warning event', and 'Critical event' are all unchecked.
- **Mail information:** 'use encrypt' is unchecked. 'encrypt key:' has an empty field. 'pager enabled' is unchecked and 'no content' is checked. 'Subject for pager:' has an empty field. 'mail to:' has an empty field.
At the bottom are 'Save', 'Cancel', and 'Help' buttons.

少なくとも、トラップ イベントを 1 つ選択し、メールとメールの最小間隔を入力し、電子メール アドレスを 1 つ入力してください。複数の電子メール アドレスを入力するには、各アドレスをスペース、コンマ、またはセミコロンで区切ります。

表 2-1 トラップ情報パラメータ

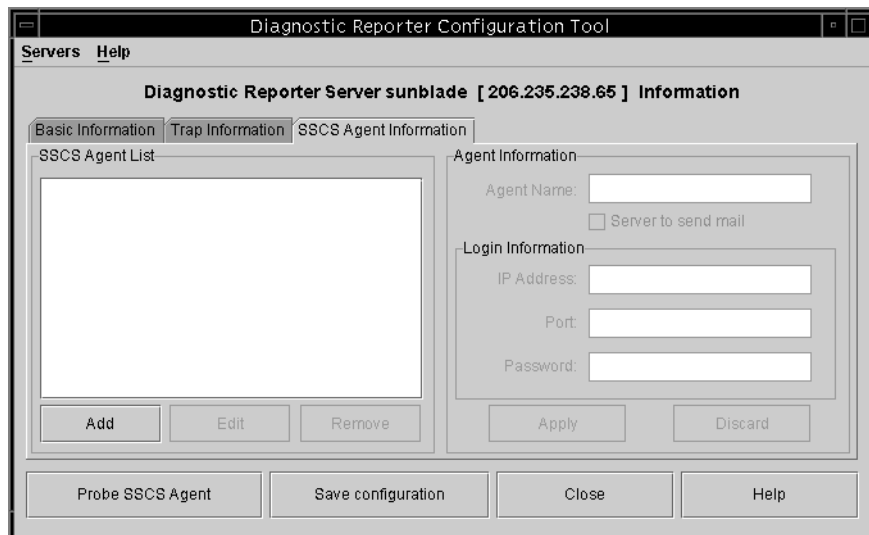
パラメータ	値/説明
Content	電子メール本文に含める情報を指定します。指定値: all/ event /log /report /hosteventlog イベントトラップを選択し、最小間隔が 0 または * である場合、Content は Event でなければなりません。 Periodic trap を選択する場合は、Content が Event であってはなりません。
Trap type	トラップ タイプのプロパティを、Property of event type trap (イベント型トラップ) または Property of periodic trap (定期トラップ) で指定します。
Minimum interval between mails	イベント型トラップ用の電子メールと電子メールの間隔として、以下の希望の値を指定します。 * - イベントが発生すると必ず報告する HH[:MM] - 時間間隔内で最後に配信されたイベント メッセージを報告する時間を 24 時間形式の「時:分」で指定します。 例: 16:30 = 4:30PM
Active trap events	イベント型トラップは、イベントの 3 つの種類から選択してアクティブにすることができます。
Periodic トラップ型	crontab 形式を使い、電子メールの送信時間を次のように指定します。 minute (0~59 分) hour (0~23時) day of month (1~31 日) month (1~12 月) day of week (0~6、0=日曜)
チェックボックス - use encrypt	チェックマークを付けた場合、暗号化された電子メールが送信されません。Sun に送信される電子メールを暗号化するには、use encrypt を選択します。暗号キー (encrypt key) は、イベントメッセージをダウンロードするときに表示される (オプションの) 識別子です。
チェックボックス - pager enabled	ページャ使用可能なメール アドレスにメールを送信するには、このボックスにチェックマークを付け、メールの件名を Subject for Pager に入力します。このメールに内容を何も含めない場合は、no content を選択します。
チェックボックス - no content	
mail to:	このメールの電子メール アドレスを指定します。複数のメール アドレスは、“ ”、“,”または“;” で区切って指定します。

次の例では、すべてのイベントが選択され、support@sun.com に送信されます。



8. Diagnostic Reporter は一度に複数の Configuration Service エージェントに接続できません。

1 つまたは複数の Configuration Service エージェントに接続するには、SSCS Agent Information タブをクリックし、Add をクリックします。



各 Configuration Service エージェントについて、Agent Name、Agent IP Address、Port、および そのエージェントにアクセスする `ssconfig` ユーザの Password を指定します。

- **Agent Name** - 電子メールに含める名前。実際のマシン ホスト名または別名を指定できます。
- **Port - Configuration Service** エージェントのリスナー ポート番号。デフォルト値の 1270 をそのまま使用します（ほかの有効な値は 1271、1272、1273）。エージェントに接続できない場合は、この値を変更してから再実行してください。
- **Password** - `ssconfig` ユーザのパスワード。Diagnostic Reporter デーモンが Configuration Service エージェントに接続するには、先にサービスによって `ssconfig` ユーザーの正しいパスワードが供給されなければなりません。

エージェントのパラメータを入力した後、変更をキャンセルするには **Discard** をクリックし、この構成を保存するには **Apply** をクリックします。エージェント リストにある各エージェントは、指定されたイベント メッセージをこの構成が保存されている Diagnostic Reporter Service に送信します。

9. 構成を作成または編集した後、メイン ウィンドウで **Save Configuration** をクリックして、構成を Diagnostic Reporter に保存します。

Diagnostic Reporter Service が再起動し、構成ファイルの再読み取りを行います。

10. ある時点における各エージェントの現在のステータスを見るには、メイン ウィンドウで **Probe Configuration Service Agent** をクリックします。

Agent Information ウィンドウに色付きのステータス ボタンが表示され、各エージェント サーバ上の Configuration Service エージェントで Diagnostic Reporter Service がアクティブであるかどうか示されます。

- 赤 - Diagnostic Reporter が Configuration Service エージェントに接続できない。
- 黄色 - Diagnostic Reporter が Configuration Service エージェントを検索中。
- 緑 - Diagnostic Reporter が Configuration Service エージェントに接続されている。
- なし - Configuration Service エージェントの情報がまだ保存されていない。

このボタンの色とテキストは、20 秒おきに変化します。

▼ レポート ツールをセットアップして使用する

Solaris 動作環境のシステムでは、Diagnostic Reporter のレポート機能により、ローカル接続されたすべてのアレイの構成が含まれるレポートを生成できます。

1. ローカル接続されたアレイを監視するローカル ホストを設定します。
 - a. Configuration Service メイン ウィンドウで、Array Administration → Controller Assignment を選択します。
Assign Server to Manage a RAID Controller ウィンドウが表示されます。
 - b. Server to manage this controller リストからサーバを選択し、Apply をクリックします。
これにより、選択したサーバがアレイ コントローラを管理するようになります。同時に、リスト内のほかの全サーバがこのアレイを管理できないようになります。
 - c. Close をクリックして、この表示を閉じます。
2. 次のように入力して、ローカル サーバを `ssdgrcli.cfg` ファイルに追加します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd -c -s password@ip address
```

`ssconfig` パスワードの入力を求められます。

3. 次のコマンドを実行して、レポートを生成します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd -r
```

▼ Mail Receiver Tool をセットアップして使用する

Mail Receiver Tool はオプションのツールで、通常の電子メール アプリケーションの代わりに使用できます。暗号化されていない電子メールと暗号化された電子メールを送受信できます。

1. Mail Receiver Tool を起動します。

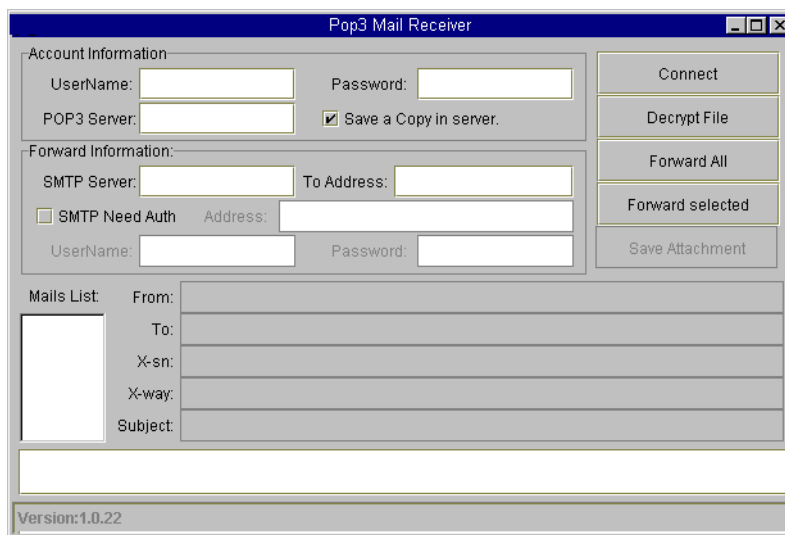
Solaris/Linux 動作環境では、次のように入力します。

```
# ssdgrptpop
```

Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システムでは、Start → Programs → Sun StorEdge 3000 Family → Diagnostic Reporter Mail Receiver Tool を選択します。

2. POP3 Mail Receiver ウィンドウで、イベント メッセージ送信先の UserName、Password、および電子メール サーバの IP アドレス (POP3 Server) を指定します。

必要であれば、SMTP 情報も指定します。



a. イベント メッセージを受信するには、Connect をクリックします。

b. 暗号解読が必要な場合は、Decrypt File をクリックします。

c. イベント情報やアラートをほかのユーザーにも送信するには、Forward All (すべて転送) または Forward Selected (選択して転送) をクリックし、宛先アドレスを指定します。

▼ Diagnostic Reporter をアンインストールする

Solaris 動作環境

パッケージ名を指定して `pkgrm` コマンドを使用し、Diagnostic Service の 1 つまたは両方のコンポーネントを削除します。パッケージ名は次のとおりです。

- SUNWscsa - Diagnostic Reporter エージェント
- SUNWscui - Diagnostic Reporter Config Tool (UI)

Linux 動作環境

パッケージ名を指定して `rpm -e` コマンドを使用し、Diagnostic Service の 1 つまたは両方のコンポーネントを削除します。パッケージ名は次のとおりです。

- SUNWscsa.rpm - Diagnostic Reporter エージェント
- SUNWscui.rpm - Diagnostic Reporter Config Tool (UI)

Microsoft Windows NT/2000 オペレーティング システム

Diagnostic Reporter を Windows コンソールから削除するには、Windows の Add/Remove Programs ユーティリティを使用してください。

1. Start → Settings → Control Panel → Add/Remove Programs にアクセスします。
2. Diagnostic Reporter アプリケーションを選択し、Add/Remove を選択します。
Windows のプロンプトに対して適切に答えます。

トラブルシューティング

Diagnostic Reporter から電子メールを受け取らなくなった場合、Diagnostic Reporter が動作を停止した可能性があるため、停止してから再起動する必要があります。

(Solaris OE) 次の 3 つの場合に、Diagnostic Reporter が動作を停止し、その状態を報告しなくなることがあります。対応策は、Diagnostic Reporter を停止して再起動することです。手順については、9 ページの「Diagnostic Reporter を手動で起動/停止する」を参照してください。

- Configuration Service エージェントが異常停止した場合、または停止されて再起動された場合、Diagnostic Reporter が動作を停止する。
- Diagnostic Reporter Config Tool が実行中のときに Diagnostic Reporter デーモンが停止され再起動された場合、Diagnostic Reporter Config Tool がこのデーモンと通信不能になることがある。
- Configuration Service エージェントが異常停止した場合、または停止された場合、Diagnostic Reporter デーモンがこれを検出せず、電子メールの送信を停止したが、Diagnostic Reporter が接続状態にあると緑のステータス記号で示されている。